

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	MIRAI KODOU		
○保護者評価実施期間	令和7年2月15日		～ 令和年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間	令和7年2月14日		～ 令和7年2月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	看護師の在籍により医療的ケア児の受け入れが可能で、他施設では利用困難な利用児にも放課後デイサービスとしての場を安全に提供することが出来ている。	看護師の在籍人数が多いため、定期的に看護師会を開き、ケース情報の共有、医療的ケアの共有、ヒヤリハット・インシデント報告の共有、対策に力を入れている。緊急時対応や心肺蘇生の学習会を定期的に開催している。各看護師が日本小児看護学会スキルアップ研修-医療依存度の高い子どもと家族の看護コース、スキルアップ研修を受講している。	令和7年度は救命救急の講習会の参加を計画している。日本赤十字社主催の幼児安全講習会の受講を予定し、各スタッフに伝達講習を行い、急変時の対応についてのシミュレーションを定期的に行う。各看護師による日本小児看護学会スキルアップ研修-医療依存度の高い子どもと家族の看護コース、スキルアップ研修を受講を継続していく。外部研修への参加も継続していく。
2	理学療法士の在籍により、継続的なリハビリが必要な児童に対しても、個別的な機能訓練に時間を持てる事が強みと言える。運動感覚面の向上としても理学療法士の視点から運動プログラムを作成している。	理学療法士会を定期的に開催し、症例検討を行いリハビリテーションの過程で、どんな問題にどう取り組み、何を得たかを話し合い、医療者同士で経験を共有し知識を深めている。施術方法の向上を図っている。安楽な体位など、多職種への指導も行っている。	外部研修の参加や他リハビリ施設との情報の共有を図っていく。児童と保護者とも目標を共有し、生活に役に立つリハビリを提供していく。
3	保育士、児童指導員、理学療法士、看護師等の視点を取り入れた療育活動の提供が可能である。医療的ケア児の外出も積極的にしている。	医療的ケア児、肢体不自由児も可能な限り、外出などの経験を積んで行けるよう安全管理に努めつつ外出の機会を提供している。(公園、イオンモール、図書館等) 他施設(同社3ピース)との交流を図っている。	児童館等の児童との交流の機会をもつ。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会や保護者会の開催等により、保護者同士の交流の機会が十分に設けられていない。	放課後デイサービスの利用児童の利用日数や利用人数が少なく、保護者会の開催はされていなかった。	他施設や各関係機関とも協働して、保護者の会等を開催していきたいと考える。
2	放課後児童クラブや児童館との交流はかかれていない。	放課後の利用時はリハビリ中心に行っているため、交流の時間は持っていない。長期休みには児童館に遊びに行く事はあった。	長期休みなどに児童館との交流が可能か検討してみる。
3	生活空間がこども達の活動によって手狭に感じる事がある。	天気の良い日は公園や施設に庭に出たり、隣の広い施設に移動して運動をするなどして対応している。	こども達の活動によって、活動場所を検討していく。